

林道施設に係る個別施設計画策定のための  
ガイドライン

平成27年3月27日策定

林野庁整備課

# 目 次

1. はじめに	1
2. 用語の定義	1
3. 個別施設計画に記載する事項	2
4. 計画の見直しについて	3
5. 様式	4
6. その他	4
別添	5

## 1 はじめに

「林野庁インフラ長寿命化計画（行動計画）」（平成26年8月林野庁策定）（以下「林野庁行動計画」という。）では、林道施設における長寿命化対策について、老朽化したインフラの補修等狭義の対策にとどまらず、点検・診断の結果に基づき、機能強化や更新も含めた施設の機能の維持・強化に必要な対策を適切な時期に実施するとともに、これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策の履歴等の情報を的確に記録・更新していくことにより、次期の効果的かつ効率的な維持管理・更新等につなげるいわゆるメンテナンスサイクルの構築を図り、将来にわたって求められる機能を適切に発揮し続けるための長寿命化対策の充実を図ることとしている。

これらの考え方を踏まえつつ、「個別施設毎の長寿命化計画」（以下、「個別施設計画」という。）においては、予防保全型維持管理の考え方を導入し、個々の林道施設の現状を把握するとともに、これを踏まえた施設毎の維持管理・更新等の内容について整理・計画することとする。

なお、本ガイドラインは、林野庁行動計画において示された考え方にに基づき、個別施設計画を策定するに当たっての留意点を解説したものである。

## 2 用語の定義

### ① 点検

林道施設の点検には、通常点検、定期点検、中間点検、特定点検、異常時点検があるが、長寿命化に係る点検は主として定期点検のことをいう。

なお、定期点検とは、林道施設の最新の状態を把握するとともに、次回の点検までの措置の必要性の判断を行う上で必要な情報を得るために行うもので、一定の頻度を定めて定期的を実施するものである。

### ② 診断

点検の結果に基づいて林道施設の健全性を判定し、どのような対策が必要か（または必要でないか）を判断することをいう。

### ③ 維持

林道施設の機能を保持するため、一般に日常計画的に反復して行われる措置をいう。（例：除草や除雪、橋梁排水施設の清掃 等）

### ④ 補修（修繕）

林道施設に生じた損傷を直し、もとの機能を回復させることを目的とした措置をいう。

### ⑤ 更新（新設）

林道施設の機能が大幅に低下した場合等に、既存の林道施設と同等またはそれ以上の機能を有する施設を、既存施設の代替として新たに整備することをいう。

### ⑥ 機能強化

耐震補強など当該施設の設置時には想定されなかった事態への対応を図るこ

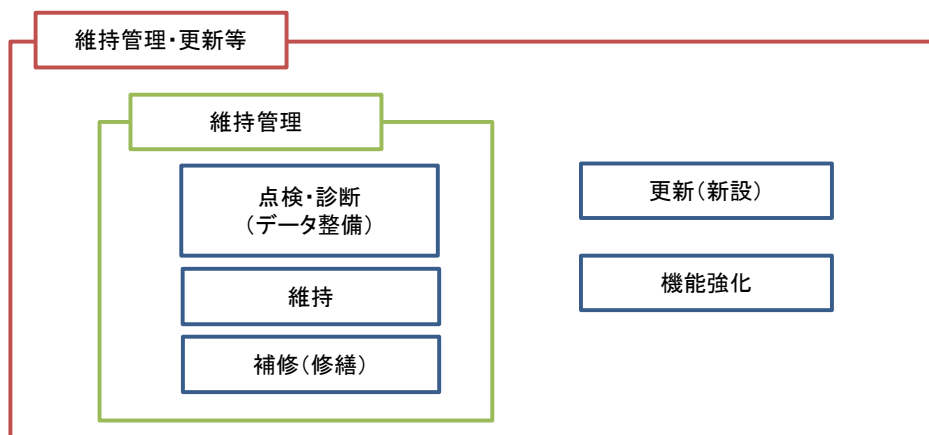
とをいう。

### ⑦ 維持管理

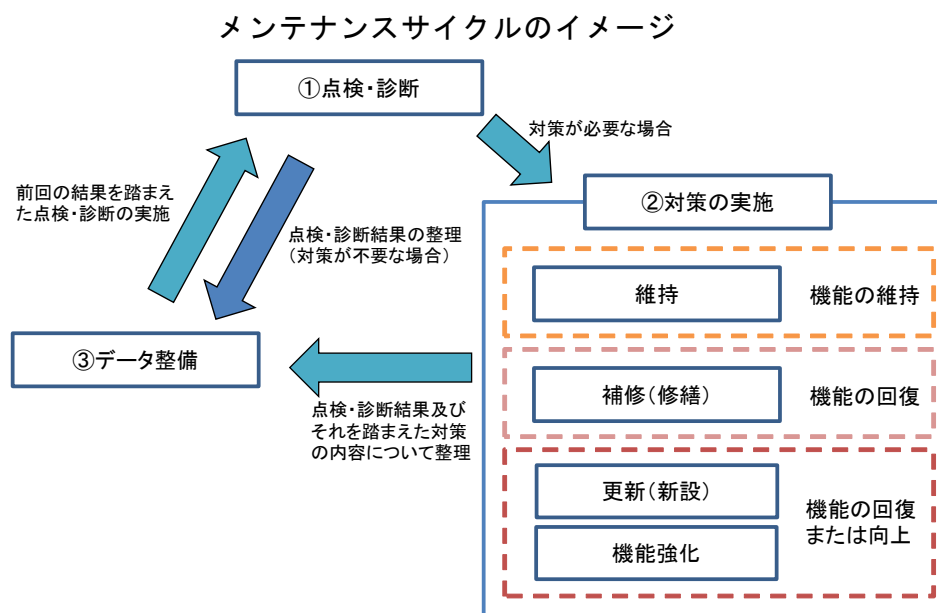
点検・診断を実施し、その結果を踏まえて維持、補修を実施することをいう。

### ⑧ 維持管理・更新等

点検・診断を実施し、その結果を踏まえて維持、補修といった維持管理を実施したり、更新、機能強化を実施することをいう。



### 【参考】



## 3 個別施設計画に記載する事項

個別施設計画には、管理者ごとに、次の①～⑦に掲げる事項について記載する。

### ① 基本的事項

各管理者が実施する林道施設の長寿命化対策についての基本的な考え方について、「公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進について」（平成26

年4月22日付け総財務第74号総務大臣通知)に基づき各都道府県及び市町村が策定する公共施設等総合管理計画並びに林野庁行動計画及び自らが策定する行動計画を踏まえ記載する。

## ② 対象施設

林道台帳に記載された橋梁（橋長4m以上）、トンネル、その他重要な施設を対象施設として記載する。

なお、その他重要な施設は、管理者の主体的な判断により、林道通行の安全を確保する上での重要性や経済性の観点から、計画的な点検・診断、補修、更新等の取組を実施する必要性が認められる施設とし、具体的にはロックシェッド、スノーシェッド等が考えられる。

## ③ 計画期間

施設の状態は、経年劣化等によって変化することから、点検サイクル（5年毎程度）等を考慮の上、5年間から10年間を目安として施設毎に計画期間を設定・記載する。

## ④ 施設の優先度

点検・診断により施設の健全度を評価した上で、当該施設（又は林道）の設置目的や利用頻度、利用計画、地域経済への貢献度、緊急時の迂回路としての機能等についても考慮し、施設毎に施設の優先度を設定・記載する。

## ⑤ 施設の状態等

各施設毎に点検・診断を実施し、それぞれの施設に求められる機能を適切に発揮しているかを把握した上で施設毎に現状を記載する。

また、初回の計画策定時に点検・診断を実施していない施設については、点検実施予定時期を施設毎に記載することとし、点検・診断実施後に適宜計画を更新する。

なお、各施設のデータは、現状の把握のみならず将来の老朽化の予測等に活用可能な貴重な情報であるため、継続的に記録・保存することが重要である。

また、施設の点検・診断の頻度や内容等の基準については、「林道施設長寿命化対策マニュアル」を参考とされたい。

## ⑥ 対策内容と実施時期

「④施設の優先度」及び「⑤施設の状態等」を踏まえつつ、施設の機能に影響を及ぼし得る不具合が認められる場合は、必要に応じて詳細な点検を実施した上で、補修、更新、機能強化等の必要な対策について検討するとともに、計画する対策の内容（工事等の内容）や実施時期を施設毎に記載する。

## ⑦ 対策費用

計画期間内に要する対策費用の概算を施設毎に記載する。

## 4 計画の見直しについて

社会情勢の変化、技術的知見の向上等により、計画内容に大きな変更が生じる場合は、適宜計画を見直すものとする。

## 5 様式

個別施設計画の様式は、別添を参考とする。

なお、施設の概要、施設の状態、対策の内容等については、個々の施設毎に個票（別紙（個票））を作成するとともに、施設の種類（橋梁、トンネル等）毎に一覧表（別紙（一覧表））に整理する。

また、施設毎の状況写真や詳細な点検・診断結果については、林道施設長寿命化対策マニュアルの点検様式に取りまとめるとともに、実施した対策の内容を含め、点検や補修等の履歴を整理した施設管理カルテを更新し、林道台帳と一緒に保管する。

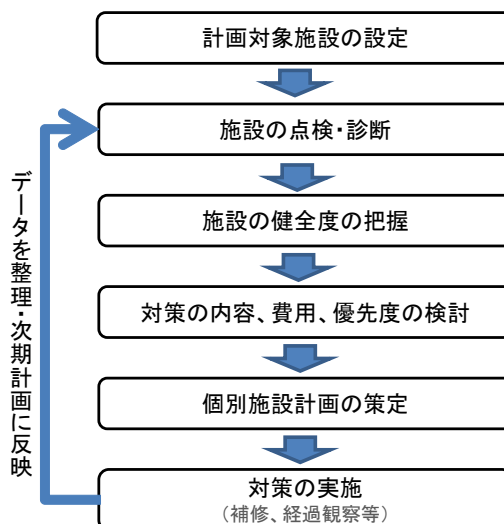
## 6 その他

本ガイドラインにおいて取りまとめる内容について、管理者が既に独自の計画として整理している場合は（例えば、保全整備計画や長寿命化修繕計画等）、当分の間、当該計画をもって個別施設計画に代えることができるものとする。

この場合、管理者は、「インフラ長寿命化基本計画」（平成25年11月インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議決定）及び林野庁行動計画等の趣旨を踏まえ、不足している情報等について当該計画に追加するなど、適時適切な見直しを行うよう努められたい。

### 【参考】

計画策定及び対策の実施に係る流れ



## 〇〇市林道施設長寿命化計画（個別施設計画）

※各項目に記載している内容は記載例である。

### 1. 基本的事項

〇〇市における林道施設の現状と課題は、・・・・・・・・。

これらを踏まえ、維持管理に当たっては「予防保全型維持管理」の考え方を導入し・・・するなど必要な対策を適切に実施する。

### 2 対象施設

本計画の対象とする施設は別紙のとおりである。

### 3 計画期間

本計画における施設毎の計画期間は別紙のとおりである。

### 4 施設の優先度

本計画における施設毎の優先度は別紙のとおりである。

### 5 施設の状態等

本計画の策定に当たって実施した点検・診断により把握された（または本計画の策定時点で把握されている）施設毎の状態については別紙のとおりである。

なお、点検・診断が未実施の施設については、点検実施予定時期を記載している。

### 6 対策内容と実施時期

上記「施設の優先度」及び「施設の状態等」を踏まえ、施設毎に講じる対策の内容及び実施の時期について別紙のとおり計画する。

### 7 対策費用

個別施設ごとの対策費用の概算については別紙のとおりである。なお、この金額は計画策定時点における概算であり、具体の工事発注時における詳細な設計や社会情勢の変化等により、金額に変動が生じる場合がある。

#### 記載注意

「林道施設における個別施設計画策定のためのガイドライン」に留意の上、記載する。

個別施設計画一覧表(橋梁)

【更新年月日:平成27年12月〇日】

個別施設 整理番号	林道台帳 索引番号	路線名	林道種類 及び区分	橋梁名	所在地	起点から の距離	建設 年度	供用 年数	種別	型式	道路橋 示方書	橋格 (設計荷 重)	橋下 条件	橋長 (m)	幅員 (m)	上部工型式	橋台工 型式	橋脚工 型式	海岸から の距離 (km)	施設の現況			計画内容				優先 度	措置記録					備考			
																				点検実施 年月日	判定区分	所見等	計画期間	内容		実施 予定時期		対策費用 (概算:百万円)	実施 年月日	内容		対策費用 (百万円)		再判定実施 年月日	再判定区分	
																								分類	概要(数量)					分類	概要(数量)					
例 1024	34	〇〇線	自動車道2級	A橋	〇〇市〇〇	1.8	1980	35	PC橋	コンクリート床版橋	S.53	2等橋(TL-14)	〇沢	11.4	4.0	PCフレン中空床版	逆T式	—	—	H27.11.9	II	桁にひびわれ	H27~H31	補修	ひびわれ補修工	H29	1.4	中								
例 1025	35	△△線	自動車道2級	B橋	〇〇市△△	2.4	1998	17	PC橋	コンクリート床版橋	H.8	2等橋(TL-14)	〇沢	18.2	4.0	PCフレン中空床版	逆T式	—	—	未実施	—	—	H28~H32	点検	—	H28	0.2	低								
例 1026	37	□□線	自動車道1級	C橋	〇〇市□□	0.1	1979	36	PC橋	コンクリート床版橋	S.53	1等橋(TL-20)	〇川	8.4	7.0	PCフレン中空床版	逆T式	—	—	H26.5.24	II	桁にひびわれ	H27~H31	補修	ひびわれ補修工	H28	0.2	中								
例 1027	37	□□線	自動車道1級	D橋	〇〇市□□	1.9	1981	33	鋼橋	鋼桁橋	S.55	1等橋(TL-20)	〇川	14.6	7.0	鋼H桁	逆T式	—	—	H26.6.23	III	桁の腐食等	H27~H31	補修	補強工、塗装工等	H27	3.0	高	H27.6.13	補修	補強工、塗装工等	3.2				
例 1028	37	□□線	自動車道1級	E橋	〇〇市□□	7.3	1987	27	鋼橋	鋼桁橋	S.55	1等橋(TL-20)	〇川	19.5	7.0	鋼H桁	逆T式	—	—	H26.7.30	I	—	H27~H31	点検	—	H31	0.2	低								
例 1029	41	●●線	自動車道1級	F橋	〇〇市●●	1.1	1975	40	鋼橋	鋼桁橋	S.47	1等橋(TL-20)	〇川	42.0	7.5	鋼H桁	逆T式	T型	—	H25.11.6	I	—	H27~H31	点検	—	H29	0.2	低								
例 1030	41	●●線	自動車道2級	G橋	〇〇市●●	2.8	1990	25	PC橋	コンクリート床版橋	S.55	1等橋(TL-20)	〇〇市●●線	67.0	4.0	PCホステン中空床版	控え壁式	壁式	—	H27.5.2	I	—	H27~H31	点検	—	H31	0.3	低								
例 1031	44	▲▲線	自動車道2級	H橋	〇〇市▲▲	1.5	1970	45	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	〇川	5.3	3.0	RCT桁	逆T式	—	—	H27.8.25	II	基礎部の洗掘	H27~H31	補修	補強工	H28	2.0	中								





個別施設整理番号	1024	林道台帳索引番号番号	34	施設管理者	〇〇市
路線名	〇〇線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	A橋
施設の所在地	〇〇市〇〇	起点からの距離	1.8km	建設年度	1980
供用年数	38	種別	PC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	昭和48年度版	橋格(設計荷重)	2等橋(14t)	橋下条件	〇沢

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	11.4m(10.6m)		幅員(車道幅員)	4.0m(3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	PCプレテン中空床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道〇〇線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は災害時等の迂回路や近隣地域を結ぶ生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成27年11月9日				
	調査結果	桁に顕著なひびわれが確認された。放置すると雨水が内部に侵入し内部鋼材が腐食するなど、確実に劣化が進展することが見込まれる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	〇〇〇が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成27年度～平成31年度				
	内容	ひびわれ補修工法による補修を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から早期に対策を実施することが望ましいが、他橋梁との優先度を考慮して、平成29年度に実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 〇〇のため、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	ひびわれ補修工 約 1,000千円				
管理方法	長寿命化対策として、桁のひびわれ補修工を早期に行うとともに、5年に1回の定期点検を行う。また、排水施設の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年
対策費用(百万円)	0.2		1.0			0.2				
対策の内容・実施時期	定期点検		補修工			定期点検				

備 考										

個別施設整理番号	2013	林道台帳索引番号番号	22	施設管理者	〇〇市
路線名	△△線	林道種類及び区分	自動車道2級	トンネル名	△△トンネル
施設の所在地	〇〇市△△	起点からの距離	4.6km	建設年度	1991
供用年数	24年	設計または適用設計技術基準の年度	平成2年度	トンネル等級	D

施設概要	施設の規模	延長	120m	全幅員	5.0m	建築限界高さ	4.5m	内空断面積	32.0㎡	縦断勾配	9%
	施設の構造等	トンネル分類	陸上トンネル開削工法		トンネル工法		補助ベンチ付全断面工法		通行規制の有無	無し	
		壁面種類	ブロック張り工法		天井板種類		軽重気泡コンクリート板				
		坑門(起点側) 形式・延長	面壁型 12m		交通量				排水	L型側溝排水	
		坑門(終点側) 形式・延長	突出型 13m		舗装		インターロッキング系				
道路附属物、占用物件	照明										
施設の目的利用実態等	林道〇〇線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されているとともに、利用区域内には〇〇地区が存在し、生活道としても地域住民に頻繁に利用されている。										

施設の状態等の概要	点検診断日	平成27年6月1日									
	調査結果	壁面部のブロック張工に顕著なひびわれが確認された。放置すると確実に劣化が進展し、ブロック片が剥離、落下する恐れがある。									
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	トンネルの機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。								
	劣化原因	〇〇〇が考えられる。									

長寿命化計画の内容	計画期間	平成27年度～平成31年度									
	内容	ブロック張りの補修工による補修を行う。									
	実施予定時期	早期に措置を講ずる必要があるため、平成27年度に実施する。									
	施設の優先度	高	(優先度の考え方) 〇〇のため、優先度は「高」とした。								
	対策費用(概算)	剥落防止工 約 1,000千円									
管理方法	長寿命化対策として、ブロック張り工の補修工等を早期に行うとともに、5年に1回の定期点検を行う。 また、排水施設の清掃等維持作業を適切に行う。										

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年
対策費用(百万円)	1.0					0.2				
対策の内容・実施時期	定期点検、補修					定期点検				

備 考										